

門司メディカルセンター 地域医療連携室だより

当院における糖尿病教育入院の 取り組みと特徴について

門司メディカルセンターの糖尿病・血液・膠原病内科での糖尿病担当医は、日本糖尿病学会/日本内分泌代謝学会/日本甲状腺学会専門医1名、日本糖尿病学会/日本透析学会/日本腎臓病学会専門医1名、内分泌代謝学会専門医1名の計3名、メディカルスタッフは、認定看護師1名、日本糖尿病療養指導士（CDEJ：Certified Diabetes Educator of Japan）5名（看護師、薬剤師）、地域糖尿病療養指導士（LCDE：Local Certified Diabetes Educator）7名（看護師、薬剤師、管理栄養士）で治療に当たっています。その特徴を四点ご紹介いたします。

一つ目は、当院の糖尿病教育入院の取り組みについてご紹介いたします。当院では、以下の糖尿病教育パス入院のコースがあります。①週末2泊3日短期教育パス入院、②1週間教育パス入院、③2週間教育パス入院、④3週間教育パス入院の4つのコースです。患者さんの血糖コントロールや勤務や生活の状況も踏まえてコースを選べます。①について、「2型糖尿病患者における週末2泊3日糖尿病短期教育パス入院による血糖コントロール改善効果に関する検討」（糖尿病プラクティス 38：245-250、2021）を解説します。糖尿病患者を早期から教育し、生活習慣を是正することは、合併症の進展を防ぎ、寿命の確保はもとより、QOLの維持につながり、医療費の節減という観点からも重要です。勤務や家族の介護等の理由で教育入院の期間を長期に確保できない糖尿病患者さんを主な対象とし、入院前→入院3か月後の血糖コントロール改善効果について検討しました。対象は、健診等で診断された2型糖尿病患者で、経口糖尿病薬内服中のものも含みます。図1に示すパンフレットを用いて、入院期間、意義、入院費用について説明を行い、入院の意思を確認し、スケジュールに従って2泊3日（金曜入院、日曜退院）の入院期間に集中的に食事・運動・薬剤・生活指導を含む療養指導（糖尿病教室）、DVD学習、血糖6検/日測定しました。3日間同じCDEJまたはLCDEが中心に指導に当たります。患者背景は、20症例（男9例、女11例）。勤労者は9例（会社員6例、自営業2例、パート1例）でした。罹病期間は約4.5年と比較的短い方でした。結果として、HbA1c、空腹時血糖が有意に改善しました。入院前後で間食が減った、運動が増えた、飲酒が減った等人の割合が増え、食生活を中心とした生活習慣の改善が見られました。アンケート結果からは、入院期間、スケジュールは適切、治療も継続できそうとの肯定的な意見が多く、治療意欲の向上にも寄与したと考えられます。また当プログラムは、入院期間が短く、費用負担が少ないとから経済的に厳しい人、週末を利用する点では勤労者に適したプログラム



門司メディカルセンター
糖尿病・血液・膠原病内科
新生 忠司

と考えます。

二つ目は、インスリンポンプと持続グルコース測定器です。インスリンポンプは、当院では、2021年9月からメディセーフウィズの取り扱いを開始しました。高血糖・低血糖を繰り返す方の血糖コントロールを改善できること、インスリン量は8割程度に減量できることなどのメリットが期待できます。持続グルコース測定器については、2020年11月からFreestyleリブレ導入、2021年10月から施設基準（インスリンポンプを使用していることが条件）を満たしたため、Freestyleリブレpro導入しています。後者の導入により、インスリン注射を施行していない方でも、CGM測定が可能となりました。これを外来で装着して教育入院をすることで、外来、入院での血糖の推移を比較して食事、運動療法、治療薬の適正化を行っています。

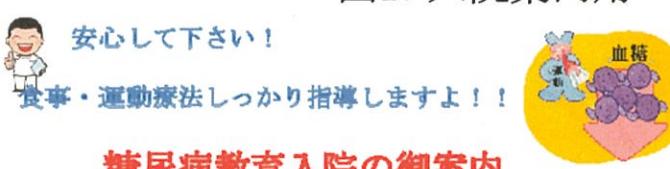
三つ目は、糖尿病患者の治療と就労の両立支援です。糖尿病両立支援は、主治医、産業医、コーディネーターが継続して単独で行うことは困難であり、院内で両立支援チームを立ち上げ、チームでの支援体制を行っています。

四つ目は、糖尿病センターとして、循環器内科、腎臓内科（透析導入）、脳神経センター、眼科、皮膚科、歯科、更に消化器病センター（外科、消化器内科）、整形外科（骨折、骨粗しょう症）とも連携して、施設完結型の合併症の管理を行っています。

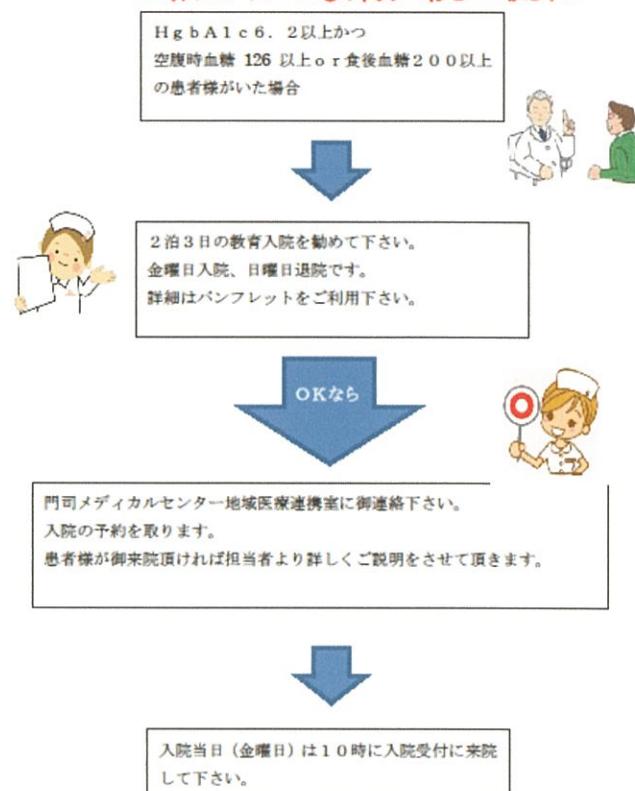
以上、当院では、“経験豊かな専門スタッフがチームで血糖改善！”を合言葉にチーム力を生かした糖尿病教育入院を行っています。いつでも気軽にご連絡ください。

ご紹介を心よりお待ちしています。

図1. 入院案内用パンフレット



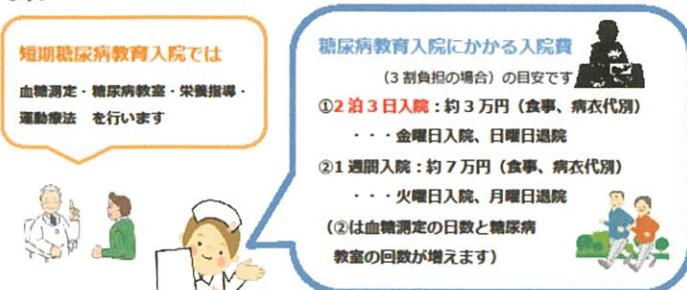
2泊3日の教育入院の流れ



健診などで高血糖が見つかった人の43%が10年後には糖尿病を発症しています。また、検診ではHbA1cと空腹時血糖のみの測定ですが、今、食後高血糖が認知症発症率や合併症発症率を上昇させるとされています。食後の血糖値を測定することによって、糖尿病境界型や初期の糖尿病をチェックできます。予備軍と言われた方やご家族に糖尿病の方がおられる方は是非この機会に自分の血糖について調べてみませんか？

「糖尿病はあなたが主治医」

血糖コントロールの主役は患者さん自身です。血糖をコントロールするのは医師でも、他の誰でもなく患者さんが主体的に食事や運動に取り組むことが大切です。これまでの生活を見直し、健康的な生活を送ることが出来る様に自己管理する手段を、この入院の中で習得して頂ければと思います。



*当院には、糖尿病専門医と糖尿病療養指導士がいます。

*必ず結果にコミットさせていただきます。

第1回救急症例検討会を開催しました

6月16日（木）に北九州市消防局の方と救急症例検討会を開催いたしました。

令和3年度に当院に搬送された患者さんの中から、脳神経外科、消化器内科、循環器内科の3診療科から症例の発表を行い、活発な討論と意見交換を実施いたしました。

急性硬膜下血腫等の重症例、救急対応困難例などを選択し、救急隊の現場活動を評価・検討し、フィードバックする場として役立てています。救急隊員にはいつも活発な発言で会を盛り上げていただきしており、顔の見える関係を構築する上でも有意義な症例検討会となっています。

このような活動を通じて、地域の救急医療水準の向上に貢献し、一人でも多くの患者さんが社会復帰できるよう、関係医療機関の方々と力を合わせて努力して行きたいと考えております。今後ともよろしくお願ひいたします。



第1回地域医療支援病院運営委員会を開催しました

6月30日（木）に令和4年度第1回地域医療支援病院運営会議を開催しました。

当院は平成24年から「地域医療支援病院」として承認され、地域医療・救急医療に力をいれて病院運用を行っています。令和4年度からは、許可病床が200床未満となりましたが、引き続き、福岡県の地域医療構想調整会議にも承認をいただいております。

会議におきましては、当院の地域医療支援病院としての実績、新型コロナウィルス感染症第6波への対応、令和4年度の当院の体制を当院院長から報告、脳神経外科清野医師からの症例報告の後、当院の運用等について、地域医師会、有識者、救急隊、行政の方と意見交換をすることができました。

今後も門司区の地域医療支援病院としての責務を務めて参りたいと思います。ご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひいたします。



第1回医療・介護連携意見交換会を開催しました



7月6日（水）16時から16事業所の訪問看護師・ケアマネジャーの皆さんとオンラインで意見交換会を行いました。いただいた貴重なご意見は、今後の連携に活かしていきます。

次回開催の際は、ふるってご参加ください。

病院理念

働く人々と地域の人々の健康管理の支援と信頼される医療を提供します。

発行 独立行政法人 労働者健康安全機構 九州労災病院門司メディカルセンター 地域医療連携室

☆直通の連絡先

〒801-8502 北九州市門司区東港町3番1号

TEL : 093-332-7616

FAX : 093-331-3466

PHS : 093-332-1250(地域医療連携室担当看護師)

室長 大西 英生

課長 小関 浩文

事務 池田 陽介

上田 英理子 川野 美穂

小山 真純 本田 美穂

片山 康雄

MSW 桂川 陽子 前原 知香

大石 夏喜

入退院支援患者紹介センター看護師長 古賀 さとみ

入退院支援患者紹介センター看護師 野副 可奈子

岡本 紀美子

村枝 絹代

秋本 真水